

# 関札・掛札についての一考察

梶 洸

## 1. はじめに

### (1) 調査の動機

関札については、一度は調べてみたいと考えていたが、辞書をもて、歴史辞典・郷土史辞典にも一項目として何の記述もなく、専門書でも余り詳しい説明はされてはいない。やはり余り必要ではないものと自らを慰め、怠惰と億劫に荏苒今日にいたった。

<sup>たまたま</sup> 偶々鳥取県立博物館の主任学芸員・来見田博基の「関札と関札との空間は城内と看做す」との論説や草津市立街道交流館館長八杉淳の「関札の内容、國元がわかると本陣での休泊実態の解明につながるのではないか」との話を聞き、本陣資料としても亦必要であると考え、そのうえ関札についての効用の実体を知り<sup>ようやく</sup> 漸く決心した。

そう決心させたことは天保14年(1843年)5月8日、四国丸亀の京極長門守泊と長州萩の松平大膳大夫<sup>いさか</sup> 休みとの「諍い」である。この解決に関札が一役買っていた。それは、大膳大夫が同月9日から16日までを掛ヶ日としていたが、そこへ長門守から6日に宿泊の申入れがあり、本陣主人は一日違いのため、又9日定刻に長門守が立退かれれば何ら差し支えることなく、簡単に長門守の宿泊を請け入れてしまったことにある。

ところが大膳大夫側の御昼見合の柳九兵衛が8日の晩、本陣主人に「9日は掛日であるのに大丈夫か」と心配、本陣主人は「早朝に長門守様が立ち退かれるので何ら支障は起こらない」と返答していた。ところが間が悪く長門守の立退が遅れ、他方大膳大夫が昼休のための宿入が速く半時(1時間)の差で大膳大夫は郡山宿へ入ることが出来ず立往生。大いに立腹「大膳側の関札が既に立っているのに何としたこと」と長門守側へ話し込み、長門守は急いで立ち退き、本陣主人に「甚だ以て不束千万」と大いにお叱りをうけ詫一札を取られて解決し事無きを得た。

因みに長門守は野放図<sup>のほうず</sup> といつか大阪弁の「悪図魔」だったのか4年後の弘化4年(1847年)3月18日立退きが遅く<sup>また</sup> 亦迷惑料として本陣に金百疋(約1.7万円)を与えている。

以上のような経緯で、関札の重大な役割を知り、一考をしたためることにした。

### (2) 関札とは

休泊日が決まると10日前に宿割、4日前に関札役人が夫々差図手配をするものである。その関札とは、

#### (i) 定説：義詮説

貞治2年(1363年)二代將軍足利義詮が上洛、東寺付近に布陣の際自らの宿している旅舎を本陣と称し、その館の前に己れの名を掲げさせたのがその始まりと言われている。

#### (ii) 私的見解：参勤交代の所産

関札について義詮説から江戸時代に至る200年以上の間、特に安土・桃山時代ですら、その使用については何の痕跡もなかったと考えている。

徳川家康、秀忠は関が原で勝利して2ヶ月を俟たず、元和元年(1615年)諸大名を伏見の城へ集め武家諸法度を命じた。武家諸法度は少なくとも鎌倉時代の御成敗式目の精神を組込まれた所謂「文武弓馬の道専ら相嗜む可き」心根を唱っている。これは豊臣恩顧の西国雄藩へのけん制に外ならず、その内容は城の新築、堀の改修、徒党の禁止、大名子女の婚姻の許可、そして参勤交代の作法を命じ、これら違反に対しては厳罰に処するというものであった。

外様大名に対しての参勤交代は夏4月と決め、当初は作法ということで時として鷹狩りと称して品川まで雄藩大名を出迎えた。したがって外様大名は4月に江戸へ、4月に江戸を発つことになる。外様大名の多い西国諸大名は東海道、中国路と両街道を結ぶ山崎街道は大名同士の幅轆・混雑特に同一宿場で三家が同時に休泊することもあり、時として家臣同志の喧嘩口論も生じ、宿場への秩序を乱し、ひいては旅人への迷惑を掛けることになった。幕府は宿場での三家以上の休泊を禁じた。しかし二家にしてもこれを嫌う大名もあり、概ね一宿に一大名の休泊が定着するようになった。そのため、宿場の出入口にその大名使用の立札を掲示させた。それが時代と共に進化し江戸時代の関札が定着したのではないかと考えられる。

このようなことから、関札は参勤交代における所産であるといえるのではないだろうか。

### (3) 掛札とは

掛札（紙の関札）は休泊当日、本陣・脇本陣の門前に掲示されたもので、前述のように二代足利義詮が館の前に己の名を掲示させた所謂関札と言われるものと軌を一にするもので「御大将此所に在り」との健在を標示させたものであろう。江戸時代の関札と言われるものとは、全くその性質が異なるものである。関札は休泊者にとっては保護的、非休泊者にとっては排他的な性質のものであろうと考えている。

## 2. 宿帳による検証

### (1) 関札の送達と請書

当本陣に残る最も古い関札は寛延2年（1749年）11月24日の備前岡山藩の姫が一条関白家の養女となり「一条太閤様御方姫君」として、おそらく西国の大名か高家に嫁がれる時のものである。それにしても参勤交代の初期から関札があったとすれば130年後のものであり、何故か宿帳に関札の記載は皆無である。関札は関札役人が持参するか、または国元から運送されるものである。断簡ではあるが、「京極能登守」の関札送達触がある。

一、一筆令啓上候

能登守儀来ル三月十七日

播州網干表被到発足候

様ニ有之候 依之関札

差遣り候 御請取 下宿差支へ

無之候

大塚丹治

百々太郎右衛門

がある。また一方、関札を受取った本陣から、芸州安芸守への受取返書には、

五月十八日

松平安芸守様御休

右ノ通り被仰付則 関札

参り候ニ付 奉申上候

五月十五日

才ノ本（筆者註：道祖本）

善左エ門（筆者註：本陣主人名）

御役人中様

関札役人、関札の本陣到着日や関札、掛札についての記事を調べ、別表1の通りの結果を得た。関札役人の本陣到着は当日を含め、前日、前々日が65%を占め、前述の4日前頃の到着との世評とは全く異なり道中の切羽詰った参勤交代の状況を知ることができる。

### (2) 関札についての諸相

関札にまつわる出来事について、次のようなことがある。

#### (i) 関札の値段

関札は休泊者から届けられるものであるが直接現地で作らせてもいる。

・宝暦2年（1752年）5月28日 森和泉守様御泊 二百文 関札代

・天明3年（1783年）5月3日 森大内記御泊 二百文 関札墨代

・寛政5年（1793年）3月9日 森右兵衛様御泊 二百文 関札料

播州森家では現地で調達している。これは送達費用の節約と考えられる。

#### (ii) 関札を建てる費用

・安政5年（1793年）3月14日 稲葉伊予守様御泊 百疋 関札料

・元治元年（1864年）11月20日 黒田甲斐守様 関札壱枚関札料金百疋

上記から宿場出入口に建てる二百疋となり、経費的には現在の価格にして約3.5万円となる。このことが将来、節約の対象となった。

#### (iii) 休泊間違い

・天保9年（1838年）2月20日 津山中将様御泊間違いで御小休となる。

金百疋 御泊のところ御小休になり（約1.7万円）

金三百疋 泊間違いに付（約3.5万円）

金貳朱 御関札二枚共相戻しに付（約1.5万円）

金二百疋 泊間違いに付下宿中へ（約3.5万円）

一軒に百二十一文ずつ（約2千円）

とあり、心遣いが知れるが、なかには次のような大名もある。

・嘉永3年（1850年）3月20日御休 松平内蔵

頭様御休み 御泊の処当日御休に相成泊間違いに付いても何の御心付も無之候。

#### (iv) 川支への際

・天明4年(1784年)6月19日 松平越後守様御休 14日の処大井川満水に付御関札そのままに致し置宜敷く、19日に御役人申出の節に日付の書替を行う。

次の休泊者は同25日の脇坂であったから、これでもよかったのだろう。

#### (v) 遺骸の休泊時

・天保12年(1841年)12月9日 松平浜山様当日掛札頂戴 畳替用として三百疋(約5万円)心添百疋足(約1.7万円)被下

・天保6年(1835年)11月28日 細川越中守様御遺骸 関札なし 畳損料として金五百疋(約9万円)心付三兩二分(約20万円)

細川越中守は播州矢掛本陣に同様の記録がある。大名によってそれぞれ的那样である。

#### (vi) 関札の根にくり石を積む

関札には切芝を三重、五重にして体裁と倒れを防いでいる。しかし、弘化2年(1845年)3月17日、松平大膳大夫は豪華にくり石を積んでいる。その値段は2貫340文(約4万円)となっている。天保11年4月3日松平肥前守は次年には小石を積むといっている。

#### (vii) 大名のこし(輿)

天保6年(1835年)未11月26日、芸州の「こし」。関札は玄関にて鳥渡<sup>ちよつと</sup>立てる。このときの関札金百疋(約1.7万円)。

#### (viii) 関札の月日の訂正

因幡中将宿の2枚揃の関札の月日が十二月<sup>田</sup>八日と<sup>田</sup>の字を薄い板に書いて貼付けてある。一方の関札には偶々この<sup>田</sup>の板がとれている。その下と思われる所は無地である。<sup>田</sup>を書き入れれば済むことなのに、なぜ<sup>田</sup>を貼り付けたのか理由がわからない。珍しいケースでもある。

#### (ix) 珍しい小休関札—加賀大守様御休・松平筑前守様御休—

全国の本陣・脇本陣またその跡を探訪・調査されている川添由利子氏(鹿児島県人会東京都)から頂戴した北国(善光寺)街道の「間の宿」北原村本陣への関札である。一般にはみられない「様」「御」と二字の敬語があり、非常に珍しい関札である。これは丹波島駅が安政2年(1855年)、犀

川の洪水により被害をうけ、「間の宿」北原村の小休関札で、おそらく北原村堀内本陣ではこのような関札でないと不敬にあたるとの心遣いであったろう。このとき、宿割・関札役人はどうしていたのだろうか。

#### 3. 関札の年代特定

今回の調査の最大の目的は、関札の年代の特定である。月日しかない関札の年代特定は相当な時間と労力を費やしたが、本陣保存の関札141枚の内93件、約65%の特定に終わった(別表2)。これは文化文政期の宿帳欠落によるものである。しかし、これまでの関札ではその年代の世相や背景を偲ぶ手掛かりが出来ず「唯の板切れ」に過ぎなかった。その関札に「息吹を与え」たことは少なからぬ成果をあげたことになる。その一部を紹介しよう。まず宝暦14年6月7日の当地領主である武蔵国忍藩10万石の阿部飛驒守のものである。偶々当時大坂奉行から京都所司代への内意があり、陣屋での思惑より早く大坂へその内意が到着し急遽出立することになり、郡山駅での関札の取扱、宿割手配、下宿札の受取、人馬手配、惣代衆への接遇などがよくわかる。ちなみにこの時の宿帳をみると、当日の郡山駅での休憩は41軒472名、6両500文(約43万円)の支払いの宿割帳が残されている。

次に天保3年2月16日の因州鳥取松平因幡守のものである。

当時江戸では金、上方では銀本意の流通貨としたため、その換算率が必要であった。したがってその日その時の金銀相場により休泊費が支払われていた。また休泊者による宿内希望購買品目の価格を提示、翌朝出立前にそれら費用の完済の有無を本陣主人が確認して相手方に「直段双庭付跡改証文」なるものを差出すものである。

1、小判1両二付	6貫478文
1、同1両	銀60匁9分6厘
1、同1歩二付	代1貫618問
1、銀1匁	106文
上旅籠	泊 186文
	昼 92文
中旅籠	泊 176文
	昼 86文
上臼1升	105文

黒米 1 升 95 文  
 上酒 1 升 2 匁 2 分 (233 文)  
 并酒 1 升 170 文  
 焼酎 1 升 200 文  
 玉子 10 匁 184 文  
 そうり 1 足 12 文  
 飼葉 1 貫目 200 文  
 上味噌 200 文  
 泊 352 文  
 馬旅籠 1 疋 昼 176 文  
 以下 11 品目割愛

ここで注目されるのは馬は人の倍、卵は并酒 1 升より高く、焼酎は上酒より高価であることである。

最後は文久 3 年 3 月 12 日の島津三郎久光の急ぎ御用で京東山知恩院の屯所へのものである。文久 2 年長州過激派は公家を取込み尊王攘夷を、朝廷側も公武合体と国論を二分し混沌とした世情のなか、文久 3 年 1 月に慶喜の入京、2 月には將軍家茂の二条城へと、この時孝明天皇の内意をうけ海路兵庫に上陸、郡山駅での止宿のものである。このときは兵 700 人を指揮し郡山駅に收容しきれず下井へ 13 軒、清水村へ 70 人ばかり頼むことになった。宿泊についても極力節約を行った。一般には上 420 文、下 376 文のところ「お定め泊料として 220 文だ。前宿でも同様だ。」と頑として受入れず、本陣主人は今後は焼物もつけず「菓」ばかりの膳でよいといわしめている。

余談ではあるが、島津三郎は攘夷の無謀を建白するも朝廷内はまとまらず、わずか 3 日にして帰国したといわれている。

#### 4. 掛札について

##### (1) 儉約のため関札から掛札へ

掛札については前述以外に次のようなことが言える。掛札の多くは奉書紙に関札と同様に書き入れ、大方は月日を入れない。当日は本陣門前に掲示するからである。しかし、月日を入れたものもある。掛札の大きさは大小様々で同じ大名でも大きさの異なるものがあり、休泊者の好みによるものであろう。中には日付のないのを利用して安政 4 年 (1857 年) 3 月 21 日毛利淡路守の泊に「御関札なし 掛札当日御持参、又持帰り」と本陣主

人も儉約のためかその徹底振りに呆れている。掛札、関札も天明期より財政逼迫の煽りをくって参勤交代費用の節減の方策として関札役と宿割役の兼帯や関札を一枚建としたり、家老級になると掛札のみが主体となり、大名たちも休の場合には掛札のみの場合もあり、段々と関札の重みが薄らいでいくのがよくわかる。

##### (2) 掛札の特定

掛札には月日のないのが一般的である。中には一部記入されているものもあり、別表 4・5 の通り、特定の分類をした。

#### 5. むすび

##### (1) 本陣の趨勢とその実態

本陣は参勤交代や貴人の休泊について調整を指図、その円滑化が重要な任務であった。そのために、宿内取締の権力を与えられていた。当本陣も庄屋、問屋を兼帯、姫路藩松平家、高松藩高松家の継飛脚の請負、又一ツ橋家からも苗字帯刀、三人扶持を頂戴していた。かつて、元禄 9 年 (1696 年) から明治 3 年 (1870 年) の休泊日数及び各年毎の収入の実態を調べ、その結果予想以上に休泊数の少ないこと、その収入の低額に驚いたことがある。それによると、休憩 1391 回、宿泊 1991 回の合計 3283 回、これは年平均十日泊、14.2 回と休泊合計しても、一ヶ月足らずである。収入も年間 25 両から最高 40 両で、現代価格にすれば、年間 170 万円から 1000 万円弱である。この中から建物の修理、奉公人への手当、日常管理費等の赤字は必定であろう。このほか幕府・領主からの補助金の削減、建物修理費の厳格な申渡し、領主からの拝借金の拒否は本陣経営を困難なものにした。

##### (2) 大名の儉約

一方、大名たちも財政困難から参勤交代費を極度に節約、すなわち道中人足の削減、休泊料の据置、献上品の断り、心付 (泊料) の削減、例えば天保 6 年 (1835 年) 10 月 2 日板倉撰津守 (備中庭瀬) は 5 ヶ年の儉約に心付を 300 疋から 200 疋に減じている。次の年も同様なので、本陣主人はこのように「御へし」と仰るなら「来年は宿場の大きな旅籠を紹介するから本陣では泊めません」と、また今後は休泊の相談に来て「外様のお掛日があるので駄目だが空キ日になれば注進を

貰える」と先方の宿割に悪知恵を吹き込んでいる。

### (3) 主人の努力サービス

本陣主人は休泊者を大切にしていたことも、三田九鬼長門守が寛政7年(1795年)3月15日依頼の56年振りの泊により、「長々中絶に付 此度御泊に相成候ニ付、菓子壺兩箱値段にして五匁五分程(約6千円)献上、その返戻に金100疋(約1.7万円)被下」とのこと、普通は2千円程度のものの献上であり、少々張り込んでいる。本陣と直接関わりのある宿割役人、関札役人を大切に遇した。宿帳記事によると、関札を受取る際は座敷で行われ、主人は袴を着用頂戴している。安政5年(1858年)2月22日因幡少将の御泊の際には「御関札へ手代出迎え、宿割出迎え、関札役人一人に酒四合と肴、宿割役人へは上下三人へ酒五合、肴二品添へ、また献上に鴨二羽」を差し上げている。

### (4) 心付のリベートとその方法

このような接待とは別に天明期から大名によって休泊料による上ヶ銭、戻し(広くリベート)が行われるように、特に文久期には諸事高値になり宿賃を上げてもらう反面、リベートの要請に音をあげている。その方法は三通りある。「天保13年(1842年)3月21日小笠原佐渡守の御泊の際、上240文、下232文、惣下宿中56人、一人分14文ずつ、戻す。次に、安政3年(1856年)3月24日、稲葉伊予守参勤の際には朝夕36人内4人戻す。次いで、文久3年(1863年)4月15日芸州奥女中の場合は旅費代の内から金百疋、宿取へ戻す」とあり、このような方法は枚挙にいとまがない。

また、次のような狡猾なものもある。すなわち、文久2年(1862年)11月13日、浅野豊後守が京都警備に東本願寺への御泊の際、その代わり旅籠4人分戻し、酒五合肴二品にて380文位し、ほかにお上へ氷餅、寒晒メ二箱献上という双方納得づくでもあるのか宿割4人が無料となり、そのうえ飲み食いが出来たとの誠に狡猾な手合もあることに驚くほかはない。本陣主人はリベートにより下宿への影響も考えて、その要請を拒否はするが、やはり直接接待の宿割役の心証を恐れ、結局は応諾をしている。

### (5) 果たして本陣は「貴人の宿する大旅館」か

『本陣の研究』の大島延次郎は「本陣は貴人の宿する大旅館」と定義している。この説には賛成

しかねるもので大旅館には権威・権力は与えられてはいない。本陣にはそれがある。しかしながら、究極には休泊者あっての本陣であり、その多少によって本陣経営は左右される。したがって本陣は困難な時期にあっても宿割・関札役人を大切にしていたことがわかる。

### (6) 見せかけの所作か

使用済みの掛札、関札は本陣へ下げ渡されるのであるが、本陣側ではこれを見やすい所へ棚を作り、灯明をあげ、供物をした。それ程大切にしたことについて大きな疑問を持っていた。これは信仰心でもなく関心、ひいては休泊者への敬意をあらわすための所作、休泊者へのジェスチャーであったのではなかろうか。これだけ敬愛していますよとの心証をよくして休泊を取りこむ目的があったのではなかろうか。

本陣は参勤交代の廃止とともにその役目を終えるが、その後数十年を経て、関札は草津本陣の関札460枚、掛札3000枚近く保存されている以外は、旧本陣では骨董品的にわずかしか残っていない。風聞によれば、関札を薪がわりにしたり、当本陣でも掛札に習字の練習、落書やメモ的なものが残されている。関札などは新築の際、棟上げにこれを掲げると魔除けになるとかで差し上げたり、建物修理腰板や押入の柵に利用されている。信仰心があれば、このような事態にはならない。本陣の已むに止まれない苦勞の程を察せられる。

### (7) おわりに

以上、関札について概略を述べたが、関札についての一端を知ってもらえれば幸甚である。ご笑覧ご教示頂ければと存じます。

### 「附」

気にかかり残念に思っている関札がある。それは「御杖代千家」の小休関札である。明治2年新政府は全国主要神社の神官、社務を京都に集め、神道国教化を企図し、そのため出雲大社国造北嶋家が明治2年2月17日次いで翌日国造千家が小休、同24日には日御崎社務が小休、再び3月20日千家、翌日北嶋家が小休されている。この際、国造家から御杖代と改名になっている。それは「是迄国造と唱、此度御杖代と御勅許神代に立戻り相唱候事」と宿帳にある。この関札が戦前、旧問屋場の部屋の表に掲示してあったのが昭和23年復

員した時には無くなっていた。戦時中誰かに懇願され譲渡したものか、売却したものか。現在、出

雲大社はその御杖代から再び国造と改められている。なぜだろうと、気になっている。

別表1 宿帳内の「関札」および「関札役人」記事の記載日一覧

年代	年数	休泊日からみた「関札」「関札役人」記事の記載日												不明	計	休	泊
		当日	1日前	2日前	3日前	4日前	5日前	6日前	7日前	10日前	以外	なし					
宝暦2年～天明4年	32年	2	6	3	2	0	1	0	0	1	0	0	4	19	14	5	
天明5年～寛政6年	10年	1	6	9	3	0	1	1	2	1	2	0	3	29	16	13	
寛政7年～享和3年	10年	1	12	4	4	0	2	1	1	2	0	0	0	27	12	15	
天保4年～天保13年	10年	4	47	21	2	1	9	1	1	1	0	2	0	89	31	58	
天保14年～嘉永5年	10年	2	24	5	1	1	13	2	3	4	5	1	0	61	14	47	
嘉永6年～明治3年	17年	8	37	9	2	0	9	3	4	3	1	0	0	76	11	65	
合計		18	132	51	14	2	35	8	11	12	8	3	7	301	98	203	
%		6.0	44.0	17.0	4.7	0.1	11.7	3.0	4.0	4.1	3.0	0.1	2.3	100.0			

- 1 休泊者個々に算出 本陣資料としては各年代毎に記録するも紙面の都合上、表の如く簡素化をする。
- 2 嘉永6年から明治3年迄、17年間なるも元治元年からは殆ど記録されず故に長期にまとめる。
- 3 関札及び関札役人の記載のないのは幕末には関札を使用しなかったのではないか。
- 4 関札 関札役人は通常、4日～5日前との定説とは差がある。随分、切羽詰まって行動していたかわかる。
- 5 休泊数と比べ記事は15.27と少ないのは何故か。
- 6 この間における関札についての出来事、或いは考え方については本文内に於いて紹介する。

別表2 宿帳と年代が合致する関札一覧

番号	年代	休泊者	休泊	藩・国元	縦	横	厚	備考
1	寛延2年11月24日	一条太閤御防姫君	休	撰家	78.9	20.3	1.2	
2	宝暦9年8月4日	有馬中務大輔	休	筑後	101.2	28.8	2.0	九州最初
3	宝暦14年6月7日	阿部飛騨守	休	武蔵忍	93.6	24.2	2.7	領主大坂町奉行より京都所司代 江戸へ御越
4	安永3年5月23日	脇坂淡路守	休	播州竜野	83.1	19.0	2.0	
5	安永6年4月4日	松平大膳大夫	休	長州萩	101.9	26.5	2.4	
6	安永9年5月14日	松平越後守	休	作州津山	97.4	24.4	2.4	(天明6年5月14日休)
7	天明2年3月19日	松平安芸守	休	芸州広島	100.2	26.5	2.7	
8	天明3年4月2日	立花右近将監	休	筑後柳河	94.2	27.3	2.4	
9	寛政元年5月14日	松平縫殿頭	泊	因州新田	82.8	20.8	2.0	
10	寛政3年3月9日	森石兵衛佐	宿	播州赤穂	82.6	20.2	1.8	
11	寛政3年11月17日	松平肥前守	宿	筑州福岡	85.5	28.5	2.6	
12	寛政6年6月10日	京極能登守	宿	讃州丸亀	86.0	23.2	1.8	
13	寛政10年8月10日	松平右京大夫	宿	京都所司代	107.0	27.6	2.5	
14	寛政11年5月5日	松平上総介	休	芸州若殿	89.2	26.5	2.2	
15	寛政12年4月16日	松平左兵衛督	休	播州明石	87.5	20.5	2.0	
16	享和2年3月19日	松平上総介	休	芸州若殿	89.2	26.5	2.2	
17	享和2年3月19日	松平上総介	休	芸州若殿	91.0	26.6	2.2	
18	享和2年9月7日	松平安芸守	宿	芸州広島	102.8	2.7	2.6	
19	享和3年3月14日	松平左兵衛督	宿	播州明石	92.0	23.9	1.8	
20	文化11年3月6日	毛利甲斐守	宿	周防徳山	92.5	24.7	1.9	
21	文化14年2月27日	松平土佐守叔母	宿	土州高知	79.1	19.2	1.8	
22	文政5年5月18日	松平隠岐守	宿	伊予松山	105.0	29.2	2.3	
23	文政7年9月10日	宗対馬守	宿	対州府中	101.5	26.7	1.7	
24	文政7年9月10日	宗対馬守	宿	対州府中	101.3	2.6	1.8	
25	文政8年5月8日	松平土佐守	宿	土州高知	81.4	20.9	2.0	
26	文政8年5月8日	松平土佐守	宿	土州高知	81.0	21.1	2.0	
27	文政8年7月16日	亀井大隅守	宿	石州津和野	103.0	2.1	1.6	
28	文政12年3月20日	松平土佐守叔母	宿	土州高知	78.9	19.5	1.5	
29	天保元年3月8日	宗対馬守	宿	対州府中	101.5	27.2	1.9	
30	天保元年3月8日	宗対馬守	宿	対州府中	101.5	27.0	1.9	
31	天保2年3月10日	松平壱岐守		因州新田	91.8	22.5	1.9	
32	天保3年2月16日	松平因幡守		因州鳥取	92.5	21.4	2.3	
33	天保3年2月16日	松平因幡守		因州鳥取	112.2	29.3	2.1	
34	天保5年2月11日	松平桂翁	宿	肥州隠居	112.1	29.3	2.2	
35	天保5年3月19日	松平伊予守	宿	備前岡山	89.2	26.5	2.2	

36	天保5年3月19日	松平伊予守	宿	備前岡山	106.3	32.6	1.9	
37	天保6年5月18日	松平安芸守	宿	芸州広島	102.1	29.1	2.6	
38	天保7年正月18日	吉川監物	宿	周防岩国	96.9	24.2	1.7	
39	天保7年3月16日	松平豊後守	宿	薩州鹿児島	105.3	28.5	1.5	
40	天保7年3月16日	松平豊後守	宿	薩州鹿児島	104.2	29.0	1.6	
41	天保7年7月3日	小倉侍従	宿	豊前小倉	115.7	29.8	2.3	
42	天保7年7月3日	小倉侍従	宿	豊前小倉	115.8	27.8	2.7	
43	天保8年6月11日	松平老岐守	宿	因州新田	115.8	30.7	2.7	
44	天保8年10月13日	松平肥前守	宿	筑州福岡	102.5	29.1	2.7	
45	天保8年11月8日	内藤能登守	宿	日州延岡	85.0	24.0	0.7	
46	天保9年3月27日	松平土佐守娘	宿	土州高知	79.0	19.6	1.4	
47	天保9年3月27日	松平土佐守娘	宿	土州高知	79.0	19.7	1.3	
48	弘化2年3月21日	美作中将	宿	作州津山	109.5	27.8	2.4	
49	弘化2年3月21日	美作中将	宿	作州津山	109.5	27.8	2.2	
50	弘化2年5月13日	松平内蔵頭	休		109.5	28.2	2.2	備前岡山？
51	弘化3年10月29日	松平美濃守	宿	筑州福岡	105.2	29.1	1.4	
52	弘化5年10月29日	松平美濃守	宿	筑州福岡	92.3	26.2	2.0	
53	弘化5年3月16日	松平土佐守	宿	土州高知	107.5	29.7	1.6	
54	嘉永元年4月18日	姫路侍従	宿	播州姫路	94.2	27.1	2.0	
55	嘉永元年4月18日	姫路侍従	宿	播州姫路	94.0	27.2	1.8	
56	嘉永2年3月3日	聖護院宮	小宿	撰家方	92.4	21.6	1.5	
57	嘉永3年正月26日	箕面山岩本坊宣観權	休	仏閣寺院	88.6	14.6	0.8	
58	嘉永5年2月23日	津田伊織	泊	因州家老	95.0	24.0	1.5	
59	嘉永5年11月18日	松平土佐守叔母	宿	土州高知	78.8	19.5	1.8	
60	嘉永5年11月18日	松平土佐守叔母	宿	土州高知	78.3	19.5	1.3	
61	安政5年4月7日	備前少将	宿	備前岡山	72.7	22.3	1.8	
62	安政6年3月21日	津山中将	宿	作州津山	106.7	28.3	2.2	宿帳には3月22日と記載
63	安政6年12月5日	筑州少将	休	筑州福岡	105.9	29.6	1.9	
64	万延元年9月7日	備前少将	宿	備前岡山	103.0	28.2	2.3	
65	万延元年9月7日	備前少将	宿	備前岡山	72.8	22.3	2.1	
66	万延元年9月晦日	鍋島淳一郎	宿	肥州若殿	89.8	28.7	1.2	
67	万延元年9月晦日	鍋島淳一郎	宿	肥州若殿	89.6	28.2	1.1	
68	文久元年5月21日	亀井隠岐守	宿	石州津和野	164.2	21.5	1.8	
69	文久元年5月21日	亀井隠岐守	宿	石州津和野	104.2	21.5	1.8	
70	文久元年9月15日	松平右近将監		石見浜田	91.0	27.0	2.2	
71	文久2年3月朔日	松平備後守	宿	不明	92.2	26.0	1.8	
72	文久2年6月20日	松平紀伊守	宿	芸州浅野	92.3	26.5	2.0	
73	文久2年6月20日	松平紀伊守	宿	芸州浅野	92.0	26.2	2.0	
74	文久2年11月6日	安芸少将	宿	芸州広島	92.4	26.0	1.8	
75	文久2年12月20日	亀井隠岐守	宿	石州津和野	112.9	22.8	2.0	
76	文久3年3月12日	島津三郎	宿	薩州鹿児島	104.6	28.8	1.4	
77	文久3年3月12日	島津三郎	宿	薩州鹿児島	104.5	29.0	1.5	
78	文久3年3月18日	安芸少将	宿	芸州広島	92.3	25.7	1.8	18日から22日まで若様関東より京都へつくまで御所より差止めのため逗留
79	文久3年3月18日	安芸少将	宿	芸州広島	92.3	26.2	2.0	
80	文久3年3月29日	松平長門守	宿	因州鳥取	103.5	26.8	2.2	京都嵯峨天竜寺へ
81	文久3年3月29日	松平長門守	宿	因州鳥取	103.2	27.0	2.3	
82	文久3年4月2日	因幡中将伯母	宿	因州鳥取	100.6	29.0	2.0	文久改革により帰国
83	文久3年4月21日	松平長門守	宿	因州鳥取	103.5	26.8	2.2	京都嵯峨天竜寺より帰り
84	文久3年4月21日	松平長門守	宿	因州鳥取	103.2	27.0	2.3	
85	文久3年5月23日	京極佐渡守	宿	讃州丸亀	92.5	21.4	2.3	京都より帰り
86	文久3年7月3日	池田出羽	宿	備前家老	77.9	19.5	1.5	京都妙堂寺
87	文久3年8月15日	京極佐渡守	宿	讃州丸亀	90.2	20.4	2.4	
88	文久3年12月4日	稲葉右京亮	宿	豊後白杵	99.8	26.4	1.7	
89	文久3年12月4日	稲葉右京亮	宿	豊後白杵	99.8	26.4	1.8	
90	慶応元年10月20日	板倉侍従	宿	備中松山	91.0	26.7	0.6	
91	慶応2年10月9日	伊木長門	宿	備前家老	82.5	19.3	1.1	
92	慶応2年10月11日	備前少将	宿	備前岡山	72.8	22.6	2.2	
93	慶応2年10月11日	備前少将	宿	備前岡山	72.8	22.5	2.0	

1 年月日同一のものは二枚揃いのもの。

別表3 宿帳と年代が合致しない関札一覧

番号	月日	休泊者名	休泊	藩・国元	縦	横	厚	特記事項
1	正月 28 日	因幡中将	泊	因州鳥取	117.0	29.0	2.1	
2	正月 28 日	因幡中将	泊	因州鳥取	118.0	29.3	2.1	
3	5 月 11 日	出雲少将	泊	雲州松江	118.3	32.5	3.0	
4	5 月 11 日	出雲少将	泊	雲州松江	118.4	32.3	2.8	
5	5 月 8 日	松平土佐守	泊	土州高知	81.3	21.2	2.0	
6	5 月 28 日	松平備後守	泊	土州高知	107.1	27.7	2.4	
7	10 月 3 日	薩摩中将	泊	薩州鹿児島	104.7	28.2	1.4	
8	7 月 14 日	亀井大隅守	泊	石州津和野	100.8	21.3	1.2	
9	7 月 14 日	亀井大隅守	泊	石州津和野	100.9	21.5	1.2	
10	9 月 14 日	因幡中将娘	泊	因州鳥取	91.0	23.5	2.0	
11	正月 19 日	長門少将	休	長州萩	103.2	26.8	1.8	
12	3 月 21 日	松平越後守	宿	作州津山	103.2	24.2	2.7	
13	9 月 6 日	松平安芸守	宿	芸州広島	103.2	29.2	2.6	
14	5 月 16 日	有馬玄蕃守	休	筑後久留米	106.0	29.0	2.2	
15	9 月 8 日	松平大膳大夫	休	長州萩	103.0	27.2	2.7	
16	9 月 8 日	松平大膳大夫	休	長州萩	101.6	26.3	1.8	
17	3 月 8 日	薩摩少将	休	薩州鹿児島	101.2	17.8	1.5	
18	10 月 26 日	宗対馬守	宿	対州府中	101.9	26.5	2.4	
19	3 月 10 日	因幡少将	休	因州鳥取	112.1	29.1	2.2	
20	8 月 14 日	松平右近将監	宿	石見浜田	106.5	30.0	2.1	
21	6 月 4 日	松平誠之助	宿	不詳	111.3	29.0	2.2	
22	3 月 5 日	松平備後守	宿	不詳	92.0	26.5	2.1	
23	3 月 16 日	松平豊後守	宿	薩州鹿児島	104.2	29.0	1.6	
24	10 月 3 日	薩摩中将	休	薩州鹿児島	105.2	28.5	1.3	文久3年二条城番
25	3 月 13 日	松平左兵衛督	宿	播州明石	91.0	23.3	2.3	
26	5 月 18 日	松平安芸守	宿	播州明石	108.2	29.0	2.6	
27	3 月 12 日	薩摩少将	休	薩州鹿児島	103.9	25.1	1.8	
28	2 月 17 日	松平出羽守	休	雲洲松江	106.6	29.4	2.6	
29	3 月 6 日	松平丹後守	休	豊後杵築	87.9	23.0	1.6	
30	7 月 8 日	内藤備後守	休	日洲延岡	91.3	27.0	1.8	
31	4 月 15 日	筑前中将	休	筑洲福岡	106.1	28.8	1.8	
32	5 月 15 日	宗対馬守	宿	対州府中		26.3	1.5	
33	3 月 12 日	薩摩少将	休	薩州鹿児島	104.1	29.0	1.6	
34	2 月 2 日	京極能登守	宿	讃州丸亀	90.5	24.0	2.2	
35	5 月 15 日	松平豊前守	宿	因州新田	89.2	20.7	2.0	
36	6 日	松平安芸守	宿	芸州広島	102.6	29.2	2.6	
37	3 月 17 日	酒井雅楽頭	休	播州姫路	94.0	25.0	2.3	
38	2 月 13 日	松平左兵衛督	宿	播州明石	91.0	23.5	2.2	
39	5 月 19 日	松平内蔵頭	宿	備前岡山	106.4	24.0	2.5	
40	3 月 15 日	松平土佐守	宿	土州高知	81.2	21.2	2.1	
41	3 月 24 日	九鬼和泉守	泊	丹州三田	85.5	20.9	0.8	
42	6 月 4 日	松平誠之助	宿	不詳	111.2	29.0	2.2	(21 と対)
43	月日なし	松平鶴之助	宿	不詳	75.7	23.7	1.1	
44	3 月 17 日	土佐少将娘	宿	土州高知	79.0	19.7	1.3	
45	8 月 26 日	内藤能登守	休	日州延岡	85.3	23.9	2.3	
46	9 月 24 日	久留米少将	休	筑後久留米	106.2	29.4	2.3	

別表4 宿帳と年代が合致する掛札一覧

番号	年代	休泊者名	休泊	藩・国元	縦	横	厚	特記事項
1	享保7年3月22日	土倉左膳	休	備前家老				
2	延享5年5月19日	山崎兵庫	泊	播磨山崎				
3	宝暦5年2月9日	池田信濃守	泊	備前新田				
4	宝暦10年6月26日	池田兵部	休	備前新田				
5	宝暦14年5月7日	池田内匠頭	休	備前新田				



6	明和4年5月2日	鍋島撰津守	泊	肥前蓮池			
7	明和8年5月25日	池田丹波守	休	備前岡山新田			
8	明和8年9月26日	松平左京亮	泊	石州津和野			
9	安永元年7月12日	松平左京亮	泊	石州津和野			
10	安永3年5月25日	内藤備後守	休	日州延岡			
11	安永4年8月16日	松平右京亮	泊	石州津和野			
12	安永6年3月18日	森山城守	休	播州赤穂			
13	安永7年6月11日	伊達和泉守	泊	予州宇和島			
14	安永10年3月6日	池田信濃守	泊	備前新田			(天明3年)
15	天明7年9月12日	松平右京亮	泊	石州津和野			
16	寛政2年6月5日	松平主殿守	休	肥前島原			
17	享和元年5月15日	松平上野守	泊	雲州広瀬			
18	享和3年3月10日	森和泉守	休	播州赤穂			

別表5 宿帳と年代が合致しない掛札一覧

	休泊者	回	休	泊	藩・国元
あ	荒尾近江	3		3	因州家老
	荒尾志摩	3		3	因州家老
	荒尾千葉之助	2		2	因州家老
	荒尾駿河	1		1	因州家老
	荒尾小八郎	1		1	因州家老
	浅野豊後守	1		1	芸州広島
い	板倉撰津守	5	2	3	備中庭瀬
	一柳土佐守	3		3	播州小野
	池田内匠頭	2	1	1	備前新田
	池田中務少弼	2		2	備後岡山
	池田能登守	1		1	
	池田信濃守	1		1	備前新田
	池田式部	1		1	因州家老
	伊東伊豆守	3	3		因州家老
	伊東若狭守	1	1		備中岡田
う	鶴飼大隅守	1	1		因州鳥取
お	小笠原佐渡守	3	1	2	豊前小倉
	小笠原信濃守	2		2	豊前小倉
	大村丹後守	2		2	肥前大村
	大村丹後守	2		2	肥前大村
	大村土佐守	1		1	肥前大村
	大村修理	1			肥前大村
	岡山女中	1		1	備前岡山
か	亀井能登守	4	1	3	石州津和野
	亀井隠岐守	1		1	石州津和野
き	京極能登守	17	7	10	讃州丸亀
	京極佐渡守	3	1	2	讃州丸亀
	京極若狭守	1	1		讃州丸亀
	京極若岐守	1	1		讃州多度津
	京極多田	1	1		土州高知
	京極長門守	1	1		讃州丸亀
	木下淡路守	5	3	2	
	木下肥後守	3	1	2	備中足守
	木下大和守	1	1		豊後日出
	木下備中守	1	1		
	木下縫殿頭	1		1	豊後立石
	木下千勝	1	1		豊後日出
	木下定太郎	1	1		
	木下富五郎	1	1		
く	九鬼長門守	1		1	
	九鬼和泉守	1		1	丹州三田
	九鬼丹後守	1		1	丹州三田
	黒田甲斐守	2	1	1	筑前秋月
	黒田修理	1		1	筑前秋月
こ	五島弾正少弼	1		1	肥前五島

	休泊者	回	休	泊	藩・国元
さ	酒井与三左衛門	1		1	播州姫路
そ	宗播磨守	1		1	対州府中
た	建部内匠頭	4	3	1	播州林田
	建部丹波守	1	1		播州林田
	伊達和泉守	4	2	2	予州宇和島
	伊達紀伊守	1		1	予州吉田
つ	津田亘	1		1	旗本カ
な	鍋島甲斐守	4	2	2	肥前蓮池
	鍋島撰津守	4	4		肥前蓮池
	中坊美作守	1		1	旗本
の	能州総持寺	1	1		寺院
ひ	日置数馬	1		1	備前家老
ほ	本多肥後守	1		1	播州山崎
ま	松平主殿守	18	18		肥前島原
ま	松平土佐守	6	2	4	土州高知
	松平内匠頭	1	1		
	松平隠岐守	1		1	高松松山
	松平壱岐守	3	2	1	因州新田
	松平河内守	2	1	1	予州今治
	松平肥後守	1		1	奥州会津
	松平筑後守	1		1	豊後杵築
	松平土佐守娘	1		1	土州高知
	松平左兵衛佐	1		1	播州明石
	松平飛騨守	1	1		肥前島原
	松平周防守	1	1		石州浜田
	松平又八郎	1	1		嶋原
み	三浦志摩守	2		2	作州勝山
	水野和泉守	1		1	遠州浜松
も	森和泉守	2	2		播州赤穂
	森対馬守	2		2	播州三日月
	森下野守	2		2	播州三日月
	森伊豆守	1		1	播州三日月
	毛利讃岐守	4		4	長州清末
も	毛利対馬守	1	1		周防徳山カ
	毛利伊豆守	1		1	周防徳山カ
や	山崎主税介	9		9	備中成洞
	山崎兵庫守	1		1	備中成洞
わ	脇坂淡路守	4	3	1	播州竜野
	脇坂亀吉	2	2		播州竜野
	脇坂豊之助	1		1	播州竜野
		191	80	111	